

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築計画各論		担当教員	木村 裕安	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、二級建築士試験学科 I 計画の建築計画各論の分野、後半部分を学習する。具体的には商業施設、社会施設、及び文化施設に関して、特にその分類や特徴、並びに細部計画について学習する。各施設の有名建築を建築史的見地からも紹介する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	専門士課程 建築計画 (学芸出版社)			副教材および 参考文献		確認プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	事務所の建築1	事務所の種類、レントابل比、平面計画と断面計画
第2回	事務所の建築2・工場・倉庫の計画	コアの種類、設備計画、工場・倉庫の計画
第3回	店舗・百貨店の計画	店舗建築の売り場計画、階段、エレベーター、照明計画
第4回	劇場・映画館の計画	劇場・映画館の基本計画と客席・舞台計画の詳細について
第5回	ホテル・寄宿舎・駐車場の計画	ホテルの種類、各部の計画(クローク・リネン室・パントリー)
第6回	小学校・中学校の計画1	校地の選定、配置計画(基本方針・校舎教室の配置形式)
第7回	小学校・中学校の計画2	運営方式の分類、各部の計画(教室・体育館)
第8回	幼稚園・保育所の計画	立地・配置計画、主要室の計画(保育室・遊戯室・便所)
第9回	病院・診療所の計画	病院・診療所の分類、機能構成と各室の特徴(手術室・X線室)
第10回	老人福祉施設・コミュニティ施設	コミュニティ施設・老人福祉施設の分類と特徴、及び細部計画
第11回	図書館の計画1	図書館の種類(国立図書館・地域図書館)、機能構成
第12回	図書館の計画2	出納システム・各部計画(閲覧室・レファレンスルームなど)
第13回	美術館・博物館の計画	美術館・博物館の特徴、展示計画、収蔵・保管部分
第14回	体育館・スポーツ施設の計画	競技種目毎の体育館の広さ・天井高さ
第15回	期末試験対策	期末試験の範囲の確認、過去問題の演習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	都市計画		担当教員	川名 和雄	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	4

授業概要	<p>この科目は、2級建築士の学科 I 計画の一分野である都市計画の基礎知識を学習する。具体的には住宅地計画、交通計画、まちづくりのための制度等、都市計画の理論等を学習する。また、都市空間をかたち作る主要な構成要素について基本的な用語の意味を理解するとともに、海外の街並みや都市のアクティビティについて学ぶ。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	なし			副教材および参考文献	空間体験・空間学辞典 人間の街 公共空間のデザイン オリジナルプリント		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス	学習内容、日程、評価、都市計画とは
第2回	住宅地計画・交通計画	近隣住区理論、住宅地の計画単位、地区、トハーン方式等
第3回	まちづくりのための制度等	高度地区、高度利用地区、景観地区、総合設計制度等
第4回	都市計画の理論等	パリ改造計画、広場の造形、明日の田園都市、明日の都市等
第5回	世界の都市	ドバイの街並み
第6回	都市空間（街路）	シャンゼリゼ通り、ヴェネツィア等
第7回	都市空間（広場）	カンポ広場、サンマルコ広場、カンピドリオ広場等
第8回	都市空間（集落・塔）	カッパドキア、サグラダファミリア、等
第9回	世界遺産に登録された都市	福建土楼群、白川郷、マチュピチュ
第10回	世界の都市	シンガポールの街並み
第11回	人間の街	公共空間のデザイン
第12回	まず私たちが街をつくる	都市の交通
第13回	出会いの場所としての街	都市のアクティビティ
第14回	持続可能な街	都市空間と社会的持続性
第15回	期末試験対策	1～14までの復習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築史		担当教員	亀田無限	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、2級建築士学科試験の学科 I「計画」の建築史の範囲を軸に学習する。学習内容は、古代から現代までの日本・西洋建築について、様式・作品・作家名など建築を学ぶ学生として知っておくべき必要かつ常識的な知識を学ぶことを目的とする。実際の建築を訪れることが一番ではあるが、その重要性や知識の定着を図るため、映像や画像を多用し、建築巡礼をするような授業を目標とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	なし			副教材および参考文献		配布プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス	建築巡礼のススメ(世界と日本の代表的な建築)
第2回	建築史年表	古代から現代までの日本、西洋各々の建築の時間軸の流れ
第3回	西洋建築史-1(古代)	古代エジプト・ギリシャ・ローマの建築
第4回	西洋建築史-2(中世)	初期キリスト・ビザンチン・イスラム・ロマネスク・ゴシック建築
第5回	西洋建築史-3(近世)	ルネサンス・バロック建築、ネオクラシシズム・ロマン主義
第6回	西洋建築史-4(近代建築1)	アーツ&クラフツ、ゼッセッション、アールヌーヴォー、アールデコ
第7回	日本建築史-1(古代)	古代、飛鳥、奈良、平安時代の建築様式
第8回	日本建築史-2(中世)	鎌倉、室町、安土桃山時代の建築様式
第9回	日本建築史-3(近世)	江戸時代の建築、霊廟建築、住宅建築について
第10回	日本建築史-4(近代建築2)	明治、大正、昭和の建築(戦前)
第11回	西洋建築史-5(近代建築3)	近代建築の発展と普及
第12回	西洋建築史-6(近代建築4)	巨匠(建築家)の作品
第13回	日本建築史-5(現代建築1)	戦後の公共建築、現代の住宅建築について
第14回	日本建築史-6(現代建築2)	歴史的建築物の保全と活用(西洋の事例を含む)
第15回	日本建築史-7(現代建築3)	現代建築の事例(日本と西洋)
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築環境工学		担当教員	木村 裕安	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、2級建築士試験学科 I 計画の環境工学の分野にあたる。具体的に室内気候、換気、伝熱・結露、日照・日射・採光、色彩、及び音響など建築の分野で大きな問題となりうる各項目の為、画像や映像の他になるべく身近な具体例をあげるなどの工夫をして授業を進めていく。最終的には2級建築士学科試験学科 I の基礎力を養成する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	図説やさしい建築環境			副教材および参考文献		確認プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス・空気環境	環境工学の説明、室内空気を汚染する物質
第2回	換気-1	空気の性質、換気の目的、シックハウス症候群
第3回	換気-2	自然換気(風力換気・温度差換気)
第4回	換気-3	機械換気(第1種機械換気～第3種機械換気)
第5回	換気-4	換気計画(全般換気・局所換気)、気密性能
第6回	換気-5	通風・換気計算
第7回	音環境-1	音のしくみ、音の単位、音のレベルの合成
第8回	音環境-2	吸音について
第9回	音環境-3	遮音について
第10回	音環境-4	残響・反響(エコー)について
第11回	音環境-5	騒音・振動について。騒音対策
第12回	地球環境-1	地球温暖化の仕組み、温室効果ガス、化石燃料
第13回	地球環境-2	ヒートアイランド現象、屋上緑化
第14回	地球環境-3	大気汚染・水質汚濁
第15回	前期期末試験対策	期末試験の範囲確認、期末試験の過去問題演習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築法規 I		担当教員	勝 康雄	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	<p>この科目は、建物を計画する上で法規(特に建築基準法)を守らなければ設計できないことを理解する。その手段として、過去問題を通して、問題文と条文との関わりや、問題文と実際の建物との関わり等を説明し、建築基準法の理解を深め、実践的な法規の知識を学習する。 (後期は特に集団規定を中心に学習する。)</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	50 %	課題	25 %	他	25 %
教科書	図解やさしい建築法規 建築関係法令集		学芸出版 総合資格		副教材および 参考文献		プリント、過去問題

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	防火区画の種類・仕様	防火区画の種類、界壁、隔壁等(防火上主要な間仕切壁)
第2回	内装制限	内装制限の目的、制限を受ける建物の基準、内装制限を受ける建物の仕上等
第3回	集団規定、建築基準法上の道路	集団規定概要、建築基準法上道路として扱われるもの、その他
第4回	用途地域制限,第1種低層住居専用地域	用途地域制限の概要、住居系で一番厳しい地域の建物上の用途制限
第5回	色々な地域の建築制限(別表2の見方)	別表2の見方・特徴、判断の仕方、色々な用途地域による建物の用途制限
第6回	容積率制限概要	面積算定の総復習、容積率・許容容積の算定方法等
第7回	2以上の地域内の容積率制限	2以上の地域内の容積率制限 前面道路が狭い場合(12m未満)の許容容積率の算定
第8回	屋内駐車場の有る容積率制限	容積率算定上の延べ面積、容積率の緩和(駐車スペースのある場合)
第9回	地下に住宅部分のある容積率制限	容積率の緩和、地下住宅部分のある場合の緩和内容
第10回	建ぺい率制限概要	建築面積の算定、建ぺい率の算定、許容建ぺい率の緩和
第11回	許容建築面積の算定	許容建ぺい率、許容建築面積、3以上の制限のある敷地
第12回	高さ制限 I	住居系で一番厳しい用途制限の第一種低層住居専用地域
第13回	高さ制限 II	道路制限(2つの道路に接する・建物が道路から後退)
第14回	高さ制限 III	日影規制概要、天空率概要、高さ制限全般
第15回	防火指定による構造制限	防火地域・準防火地域内に建物を建築する場合の防火上の制限
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	構造力学 I		担当教員	亀田無限	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、建築構造力学の基本を学び、力学の考え方とその計算方法について、正しい知識を習得することを目的とする。前半は一年次の復習として、力学の基礎的な問題を解けるようになること。後半は二年前期までに習得した「反力」「応力」「断面の性質」を基に、応力度、座屈、たわみ、不静定構造物について学習する。建築物を構成する柱や梁に作用する荷重によって、柱や梁に生じる応力等の構造力学の考え方を理解する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	10 %	他	20 %
教科書	図説やさしい構造力学 学芸出版社			副教材および参考文献		配布プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、一年次の復習	ガイダンス、反力・応力計算の復習
第2回	二年前期の復習-1	トラスの復習(節点法・切断法)
第3回	二年前期の復習-2	断面の性質の復習(断面一次・二次モーメント・断面係数)
第4回	応力度-1	応力度について(垂直応力度、せん断応力度)
第5回	応力度-2	曲げ応力度
第6回	応力度-3	軸方向力と曲げモーメントが同時に作用する場合の応力度
第7回	応力度-4	許容応力度
第8回	座屈-1	座屈長さとは弾性座屈荷重の公式
第9回	座屈-2	弾性座屈荷重の演習問題
第10回	たわみ	たわみの公式と演習問題
第11回	不静定構造物-1	不静定構造物とは、判別式
第12回	不静定構造物-2	不静定構造物の反力と応力
第13回	不静定構造物-3	不静定構造物(剛比と剛度)
第14回	不静定構造物-4	不静定構造物(分割モーメント・到達モーメント・材端モーメント)
第15回	テスト対策	構造力学の復習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築材料		担当教員	宍倉 良太	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は焼成品、ガラス、石などの仕上げ材料と部位別による性能別材料の特性について学習していく。これらは建物の内外部仕様を決定する上での必要不可欠な知識となり、社会に出た際の基礎知識ともなっていく。また、前半は2級施工管理技士学科試験対策として材料、一般構造などの過去問題の学習を行い合格を目指す。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	20 %	他	10 %
教科書	やさしい建築材料・施工管理技士出題分類別問題集 2級		副教材および参考文献		参考画像、復習プリント		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、2級施工管理技士対策(1)	「建築材料」 木材・コンクリート・鋼材
第2回	2級施工管理技士対策(2)	「建築材料」 その他の材料・必修基礎問題
第3回	2級施工管理技士対策(3)	「建築材料」 必修基礎問題・設計図書・積算
第4回	2級施工管理技士対策(4)	「一般構造」 地盤・木構造・RC造・S造
第5回	2級施工管理技士対策(5)	「一般構造」 必修基礎問題
第6回	焼成品(1)	タイル・レンガ
第7回	焼成品(2)	瓦・衛生陶器
第8回	ガラスと石(1)	ガラスの特徴、種類
第9回	ガラスと石(2)	石材とは、石の分類
第10回	左官材料・ボード類(1)	左官とは、特徴、近年の左官仕事、種類
第11回	左官材料・ボード類(2)その他の材料(1)	ボード類、プラスチック材料
第12回	その他の材料(2)	プラスチック材料、塗料
第13回	部位別・性能別材料(1)	床、壁、天井材料等
第14回	部位別・性能別材料(2)	断熱材料等
第15回	総復習	テスト範囲の復習、テスト対策
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築施工		担当教員	加藤 貴久	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、2級建築施工管理技術検定の第一次検定合格のための対策授業である。下記対策問題集のうち、第4章(施工管理法)と第5章(施工管理法応用能力)の部分を細かく解説する。施工管理において非常に重要となる施工管理法分野において、より専門性を深めた現場用語・管理法等を学習する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	100 %	課題	0 %	他	0 %
教科書	2級建築施工管理技士 出題分類別問題集		副教材および参考文献		図説 やさしい建築施工・配布プリント及びスライド		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	施工計画	事前調査 仮設計画 材料の保管 建築工事の届出
第2回	工程管理	工程計画 工程用語 工程表
第3回	品質管理	品質管理の計画 試験・検査
第4回	品質管理	品管図表・品管用語
第5回	安全管理	安全管理の計画 安全管理体制
第6回	安全管理	足場・支保工 作業主任者
第7回	施工管理法(応用能力)	令和4年度問題解説
第8回	施工管理法(応用能力)	令和3年度問題解説
第9回	2級建築施工管理技士試験対策	過去問題を抜粋して要点解説
第10回	2級建築施工管理技士試験対策	過去問題を抜粋して要点解説
第11回	2級建築施工管理技士試験対策	過去問題を抜粋して要点解説
第12回	ネットワーク工程表計算問題	ネットワーク工程表の用語解説 演習問題解説
第13回	ネットワーク工程表計算問題	ネットワーク工程表の公式解説 演習問題解説
第14回	工程管理問題	建築施工管理と工程をからめた難易度の高い問題解説
第15回	期末試験対策	これまで講義のおさらい・総復習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築積算		担当教員	宍倉 良太	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目では「もの」を消費者が購入するときの「価格」、そしてその「原価」、「利益」、についての説明、また積算を行う上での流れ、方法、考え方を建築工事前段階の準備、工程と共に理解を深めていく。その後、土量計算を始め、コンクリート構造の各部の拾い出しを行っていく。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	10 %	他	10 %
教科書	初めて学ぶ建築実務テキスト 建築積算、電卓必要		副教材および 参考文献		参考画像、プリント類		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、建築積算授業の概要	原価と価格、利益率計算、基本計算テスト
第2回	建築積算とは	建築積算の役割・業務の概要・内訳書について
第3回	建築積算の概要	工事費の構成と内訳書書式(工事価格、工事原価、直接工事費等)
第4回	土工の数量積算	土工数量積算の共通事項(根切り、根切り深さ、ゆとり幅等)
第5回	数量の算出①	独立基礎の数量算出(根切り深さ、面積、数量等)
第6回	数量の算出②	基礎梁の数量算出(根切り深さ、面積、幅、長さ、数量等)
第7回	数量の算出③	独立基礎、基礎梁の根切り数量算出の応用(別紙)
第8回	躯体工事、数量の算出④	独立基礎(コンクリート、型枠)算出、基礎梁の算出の検討
第9回	数量の算出⑤	基礎梁(コンクリート、型枠)算出、重複部分の検討
第10回	数量の算出⑥	柱、梁(コンクリート、型枠)算出、例題、演習問題
第11回	数量の算出⑦	梁(コンクリート、型枠)算出、例題、演習問題
第12回	数量の算出⑧	スラブ(コンクリート、型枠)算出、例題、演習問題
第13回	数量の算出⑨	壁(コンクリート、型枠)算出 例題、演習問題
第14回	テスト前復習①	根切数量の計算復習
第15回	テスト前復習②	コンクリート・型枠数量の計算復習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築法規Ⅱ		担当教員	勝 康雄	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	2級建築施工管理技士の法規関係の問題を理解できるように、過去問題等を中心に解説しながら学習する。 最初、学生も慣れている建築基準法から、過去問題に取り組む。 その後、初めてとなる建設業法、労働基準法、労働安全衛生法等資格に関わる色々な法規の概要を把握させ、過去問題を通しながら、理解を深める。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	50 %	課題	25 %	他	25 %
教科書	2級建築施工管理技士 出題分類別問題集			副教材および 参考文献		プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	施工管理の建基法(1)	ガイダンス、建築基準法の総括規定
第2回	施工管理の建築基準法(2)	建築基準法の単体規定
第3回	施工管理の建築基準法(3)	建築基準法の実体規定、まとめ
第4回	施工管理の関連法規、建設業法(1)	建設業法の概要、建設業の許可等
第5回	施工管理の関連法規、建設業法(2)	請負契約・技術者の職務(主任技術者、監理技術者等)
第6回	施工管理の関連関連法規まとめ1	建設業法の総まとめ
第7回	施工管理の関連法規、労働基準法(1)	労働基準法の概要説明(プリント解説)
第8回	施工管理の関連法規、労働基準法(2)	労働基準法関係の問題解説等(労働契約、労働条件、就業制限等)
第9回	施工管理の関連法規、労働安全衛生法(1)	労働安全衛生法の概要説明(プリント解説)
第10回	施工管理の関連法規、労働安全衛生法(2)	労働基準法関係の問題解説等(安全衛生教育、特別教育、安全衛生管理体制、就業制限等)
第11回	施工管理の関連法規、環境保全関係法(1)	廃棄物の処理に関わる法律、建設リサイクル法等
第12回	施工管理の関連法規、環境保全関係法(2)	廃棄物の処理に関わる法律、建設リサイクル法の問題解説等
第13回	施工管理の関連法規、その他の法律	騒音規制法・振動規制法・道路法・消防法・道路交通法等
第14回	施工管理の関連法規、その他の法律	騒音規制法・振動規制法・道路法・消防法・道路交通法の問題解説等
第15回	総復習	施工管理の関連法規の総まとめ
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	構造力学Ⅱ		担当教員	亀田無限	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、構造力学Ⅰの授業とともに構造力学の基本と応用を学ぶことを踏まえ、考え方とその計算方法について、正しい知識を習得することを目的とする。前半は2級建築施工管理技士対策として、試験問題の力学の範囲を解けるようになること。後半は構造力学Ⅰで習得する内容「反力」「応力」「断面の性質」「応力度」「座屈」「たわみ」「不静定構造物」について、基本から応用問題までを学習する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	70 %	課題	10 %	他	20 %
教科書	図説やさしい構造力学 学芸出版社		副教材および参考文献		配布プリント		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、一年次	ガイダンス、過去問題の実施と解説-1(力学1/反力・応力)
第2回	施工管理試験対策-2	過去問題の実施と解説-2(力学2/断面の性質)
第3回	施工管理試験対策-3	力学の基礎問題の実施と解説-1(力学3/力学に必要な計算)
第4回	施工管理試験対策-4	力学の基礎問題の実施と解説-2(力学4/反力・応力)
第5回	施工管理試験対策-5	力学の基礎問題の実施と解説-3(力学5/トラス・断面の性質)
第6回	静定構造物の反力	反力計算の演習問題
第7回	静定構造物の応力-1	静定梁・静定ラーメン・3ヒンジラーメンの応力の演習問題
第8回	静定構造物の応力-2	静定トラスの演習問題(節点法・切断法)の演習問題
第9回	応力度-1	応力度と許容応力度の演習問題
第10回	応力度-2	組合わせ応力度の演習問題
第11回	座屈	座屈長さと弾性座屈荷重の演習問題
第12回	たわみ	たわみの演習問題
第13回	不静定構造物	剛比と剛度の演習問題
第14回	不静定構造物と変形	分割モーメント・到達モーメント・材端モーメントの演習問題
第15回	テスト対策	構造力学の復習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	インテリアエレメント		担当教員	湯浅 誠	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目では、インテリアコーディネーターに必要とされる重要な構造・構法を始め、材料等に関しては様々なものを細かく学習する。その他にも現在流行りのイメージスタイルや照明計画について学習することで実際に社会に出ても即戦力となるような知識を習得する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	60 %	課題	30 %	他	10 %
教科書	超図解で全部わかるインテリアデザイン入門			副教材および参考文献		プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	インテリアの色彩計画	カラースキーム、色・素材・形、イメージスタイル
第2回	住宅の内装計画1	生活動線を考慮したインテリアエレメントの配置
第3回	住宅の内装計画2	LDKや設備機器の種類と選択
第4回	住宅の内装計画3	寝室や子供部屋等の仕上げ材
第5回	建具	内部建具、外部建具
第6回	インテリアを構成する要素	店舗の什器、住宅設備
第7回	家具のデザイン	椅子、テーブル等の材料と加工技術
第8回	インテリアの材料	金属、プラスチック、ガラス、タイル、石材
第9回	インテリアの照明計画1	照明の種類、光源の種類、色温度・配光・演色性
第10回	インテリアの照明計画2	配灯計画
第11回	インテリアの照明計画3	照明器具プレゼンボードの作成
第12回	インテリアデザインの図面1	製図の規格
第13回	インテリアデザインの図面2	図面の種類
第14回	インテリアデザインに関する法規	安全に関する規定、品確法等
第15回	テスト前総復習	第1～14回の総復習
第16回	期末試験	期末試験の実施

授 業 計 画

No.1

授業科目	ショップデザイン		担当教員	湯浅 誠	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	<p>この科目は、ショップデザインの基礎知識を学び、その企画、設計デザインを実習する。作品1は、自分のお気に入りのショップを調べプレゼンボードの作成、発表。作品2は、物販・飲食・サービス業の中から一つセレクトし実際に存在する駅前物件の店舗設計。作品3は仮想のショッピングセンター内に各自が店舗の設計を行う。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	85 %	他	15 %
教科書	なし			副教材および参考文献		プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、作品1-1(お気に入り店舗の紹介)	スケジュール、課題説明、店舗の分類、要素、素材、店舗の検索と下調べ
第2回	作品1-2(お気に入り店舗の紹介)	発表内容の構成検討
第3回	作品1-3(お気に入り店舗の紹介)	発表資料の作成(パワーポイント)
第4回	作品1-4(お気に入り店舗の紹介)	発表1 (1人8分程度)
第5回	作品1-5(お気に入り店舗の紹介)	発表2 (1人8分程度)
第6回	作品2-1(駅前物件の店舗設計)	課題説明、エスキース作成
第7回	作品2-2(駅前物件の店舗設計)	店舗名、店舗ロゴ(看板)の案出し
第8回	作品2-3(駅前物件の店舗設計)	店舗ロゴ(看板)作成
第9回	作品2-4(駅前物件の店舗設計)	平面図作成
第10回	作品2-5(駅前物件の店舗設計)	展開図作成
第11回	作品2-6(駅前物件の店舗設計)	パース作成
第12回	作品3-1(ショッピングセンター内の店舗設計)	課題説明、エスキース作成
第13回	作品3-2(ショッピングセンター内の店舗設計)	店舗ロゴ(看板)作成
第14回	作品3-3(ショッピングセンター内の店舗設計)	平面図作成
第15回	作品3-4(ショッピングセンター内の店舗設計)	展開図作成
第16回	作品3-5(ショッピングセンター内の店舗設計)	パース作成

授 業 計 画

No.1

授業科目	ビル設計		担当教員	川名 和雄	クラス	建築設計科2年	
期別	前期	履修コマ数	3 コマ/週	授業形態	演習	単位数	3

授業概要	この科目は、2年間、建築を学習してきた集大成として公共建築物を設計する。計画地に出向き、そこで感じるものを活かした上で、コンセプトを決め、エスキースから始まり、配置図、各階平面図、立面図、模型を制作する。今まで学んできた学習の成果を最大限に活かす事を期待する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	60 %	他	10 %
教科書	なし			副教材および参考文献	初めて学ぶ建築コンペ・卒業設計 やさしい建築計画		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス・オリエンテーション	スケジュール、課題について、卒業制作の基本講義
第2回	計画	構造、法規、敷地の内容確認
第3回	コンセプト 1	資料、事例収集
第4回	コンセプト 2	コンセプトメイク
第5回	コンセプト発表準備 1	発表内容構成、発表データ作成
第6回	コンセプト発表準備 2	発表データ確認、修正
第7回	コンセプト発表 1	発表(1人4分程度)
第8回	コンセプト発表 2	発表(1人4分程度)
第9回	エスキース 1	敷地図作成、フリーハンドにて1階平面プラン作成
第10回	エスキース 2	フリーハンドにて2階等平面プラン作成
第11回	エスキース 3	フリーハンドにて外構プラン作成
第12回	エスキース 4	フリーハンドにて立面プラン作成
第13回	エスキース 5	フリーハンドにて断面プラン作成
第14回	中間提出	作成したプランの確認
第15回	エスキース 6	フリーハンドにてプランの再考
第16回	エスキース 7	フリーハンドにてプランの修正

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	予備	予備
第18回	1階配置平面図作成 1	敷地図、1階平面基準線
第19回	1階配置平面図作成 2	1階平面の柱、壁の作成
第20回	1階配置平面図作成 3	1階平面の開口、家具、室名、寸法線
第21回	1階配置平面図作成 4	外構図の作成
第22回	2階平面図作成 1	2階平面図の基準線
第23回	2階平面図作成 2	2階平面図の壁
第24回	2階平面図作成 3	2階平面図の開口、家具、室名、寸法線
第25回	X方向断面図 1	X方向断面図の基準線、壁、床、天井
第26回	X方向断面図 2	X方向断面図の開口、室名、寸法線
第27回	Y方向断面図 1	Y方向断面図の基準線、壁、床、天井
第28回	Y方向断面図 2	Y方向断面図の開口、室名、寸法線
第29回	立面図の作成 1	南面立面図のGL、フロアーライン、基準線
第30回	立面図の作成 2	南面立面図の開口、屋根、外壁線
第31回	模型制作 1	模型用図面の作成(敷地、壁)
第32回	模型制作 2	模型用図面の作成(壁)
第33回	模型制作 3	模型用図面の作成(スラブ、屋根)
第34回	模型制作 4	部材の切出し(外壁)
第35回	模型制作 5	部材の切出し(内壁)
第36回	模型制作 6	部材の切出し(スラブ、屋根)
第37回	模型制作 7	部材の切出し(その他)
第38回	模型制作 8	切出した部材の組立(敷地、壁)
第39回	模型制作 9	切出した部材の組立(スラブ、屋根)
第40回	模型制作 10	切出した部材の組立(その他)
第41回	模型制作 11	模型の仕上げ(外壁)
第42回	模型制作 12	模型の仕上げ(外構)
第43回	作品発表準備 1	発表内容検討、データ作成
第44回	作品発表準備 2	発表データ作成
第45回	発表 1	発表(1人7分程度)
第46回	発表 2	発表(1人7分程度)
第47回	発表 3	発表(1人7分程度)
第48回	発表 4	発表(1人7分程度)

授 業 計 画

No.1

授業科目	建築士実技対策		担当教員	生沼 秀樹	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	この科目は、二級建築士試験の設計製図試験対策を行う。授業ではまず木造、次にRC造を学習する。特に、木造とRC造の類似点及び相違点に着目して学習していく。また、設計課題を的確に読み取った上で、計画力(エスキス)とA2用紙(実技試験用)での作図力を身につける。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	70 %	他	30 %
教科書	2級建築士試験 設計製図テキスト			副教材および参考文献		配布プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	試験概要、木造課題読取り	科目概要、試験概要、課題文の読み取り
第2回	エスキース1	ゾーニング、各室の配置、開口部、1階の計画
第3回	エスキース2	2階の計画、外構、柱配置計画、寸法、面積計算、提出
第4回	配置図兼1・2階平面図1	敷地・基準線・柱・壁の作図
第5回	配置図兼1・2階平面図2	開口部、階段、建具の作図
第6回	配置図兼1・2階平面図3	家具、外構・寸法・文字等まとめ
第7回	2階床伏図兼1階小屋伏図1	床伏図の作図
第8回	2階床伏図兼1階小屋伏図2	小屋伏図、寸法の作図
第9回	立面図1	通り芯、躯体の作図
第10回	立面図2	窓、見え掛かりの作図
第11回	断面図1	通り芯、躯体の作図
第12回	断面図2	窓、見え掛かりの作図
第13回	部分詳細図1	通り芯、躯体の作図
第14回	部分詳細図2	窓、見え掛かりの作図
第15回	部分詳細図3	寸法、文字の作図
第16回	まとめ	計画の要点等 図面まとめ

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	エスキース1	課題文読み取り、ゾーニング、各室
第18回	エスキース2	各室の配置、開口部、外構計画
第19回	エスキース3	柱割計画、寸法、面積計算
第20回	配置図兼1階平面図1	面積計算、部材表、敷地・基準線・柱・壁の作図
第21回	配置図兼1階平面図2	開口部、階段、外構の作図
第22回	各階平面図1	2階・3階躯体の作図
第23回	各階平面図2	庇、家具の作図
第24回	各階平面図3	寸法、文字の作図
第25回	立面図1	通り芯、躯体の作図
第26回	立面図2	窓、見え掛かりの作図
第27回	断面図1	通り芯、躯体の作図
第28回	断面図2	内部(床・天井)、寸法、文字の作図
第29回	部分詳細図1	通り芯、躯体の作図
第30回	部分詳細図2	窓、見え掛かりの作図
第31回	部分詳細図3	寸法、文字の作図
第32回	まとめ	計画の要点等 図面まとめ

授 業 計 画

No.1

授業科目	パースペクティブ		担当教員	木村 裕安	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	この科目はスケッチ力及びデッサン力の向上を図り、建築を立体的に考える力を身につけると共に、現場で役立つ内外観パースの作図力を養う。また建築物に付随する家具、備品等のインテリアの表現も作図出来るようにすることで次年以降のインテリア科目の基礎力を養う。最終的には1消点、2消点のパース図法を作成出来る様にする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	90 %	他	10 %
教科書	なし			副教材および参考文献	建築のパースペクティブ 勘で描くパースのコツ		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	パースの概要・評価のポイント	(課題1) 3面図からの立体図練習・アイソメ練習。
第2回	アイソメ練習	(課題2) 家具のアイソメ図・部屋のアイソメ図
第3回	分割法	(課題3) 3分割、5分割、和室の分割法練習
第4回	移動法・添景練習(人・植栽)	(課題4) 移動法・人物・植栽の描き方
第5回	一点透視—基礎	(課題5) パースグリットを利用しての1消点パース
第6回	一点透視—応用1	(課題6) パースグリットを自分で作成しての1消点パース
第7回	一点透視—応用2	(課題7) 色々な部屋形状の1消点パース
第8回	一点透視—応用3	(課題8) 和室8畳の1消点パース
第9回	一点透視—応用4	(課題9) 洋室LDKの1消点パース
第10回	二点透視—基礎	(課題10) 室内パース(拡大法)
第11回	二点透視—応用1	(課題11) 外観パース(RC2階建て・パラペット)
第12回	二点透視—応用2	(課題12) 外観パース(平屋切妻+外構)
第13回	二点透視—応用3	(課題13) 外観パース(二階建て切妻屋根)
第14回	二点透視—応用3	(課題13) 外観パース(二階建て切妻屋根)
第15回	二点透視—応用4	(課題14) 外観パース(凹凸二階建て寄棟屋根)
第16回	二点透視—応用4	(課題14) 外観パース(凹凸二階建て寄棟屋根)

授 業 計 画

No.1

授業科目	家具デザイン		担当教員	勝 康雄	クラス	建築設計科2年	
期別	後期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	この科目では、インテリアを構成する要素として極めて重要な位置を占める『家具』のデザインについて学びます。『家具』には、「箱物家具」(収納家具)・「台物家具」(テーブル、机)、「脚物家具」(いす、ソファ、ベッド)があります。それぞれの機能・特徴・材料などの講義をした後に、一度見本図を写図して家具製図法を学びます。次に、それぞれの家具について、一定の与条件に対して各自でデザインをします。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	家具のデザインと設計			副教材および参考文献	自作プリントなど		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス、家具のデザイン、DVD学習	科目説明、スケジュール確認、DVD学習「無印良品と深澤 直人」
第2回	『収納家具』のデザイン(1)	「箱物家具」(収納家具)のデザイン技法講義
第3回	『収納家具』のデザイン(2)	子供室の本棚(オープン)の製図練習(見本図の写図)
第4回	『収納家具』のデザイン(3)	「居間のリビングボードのデザイン」① エスキース1
第5回	『収納家具』のデザイン(4)	「居間のリビングボードのデザイン」② エスキース2
第6回	『収納家具』のデザイン(5)	「居間のリビングボードのデザイン」③ 設計・製図
第7回	『収納家具』のデザイン(6)	「居間のリビングボードのデザイン」④ 設計・製図
第8回	『収納家具』のデザイン(7)	「居間のリビングボードのデザイン」⑤ 製図・着彩
第9回	『センターテーブル』のデザイン(1)	「台物家具」(テーブル、机など)のデザイン技法講義
第10回	『センターテーブル』のデザイン(2)	リビングルームのセンターテーブルの製図練習(見本図の写図)
第11回	『センターテーブル』のデザイン(3)	「リビングルームのセンターテーブルのデザイン」① エスキース1
第12回	『センターテーブル』のデザイン(4)	「リビングルームのセンターテーブルのデザイン」② エスキース2
第13回	『センターテーブル』のデザイン(5)	「リビングルームのセンターテーブルのデザイン」③ 計画
第14回	『センターテーブル』のデザイン(6)	「リビングルームのセンターテーブルのデザイン」④ 設計・製図
第15回	『センターテーブル』のデザイン(7)	「リビングルームのセンターテーブルのデザイン」⑤ 設計製図
第16回	『センターテーブル』のデザイン(8)	「リビングルームのセンターテーブルのデザイン」⑥ 製図・着彩